



小金・ニュースレター

第2号

～災害に備える地域の防災力について～

松戸市では、個別事例について話し合う『地域個別ケア会議』と、地域課題について話し合う『地域包括ケア推進会議』、地域の課題を市全体で共有し話し合う『松戸市地域ケア会議』があります。今回は、『小金地域包括ケア推進会議』の中で話し合われた「地域の防災」についてご紹介したいと思います。

会議では、参加者のそれぞれの立場から、防災に関する情報を頂きました。各ご家庭での防災対策に役立つ情報がありますので、参考にして下さい！！

第2号 令和元年7月作成

編集・発行

小金高齢者いきいき安心センター

(小金地域包括支援センター)

松戸市小金3番地 高橋ビル4階

TEL 047-374-5221

FAX 047-349-0560

【参加機関】

町会・小金地区社会福祉協議会・高齢者支援連絡会・民生委員児童委員協議会・松戸東警察署生活安全課・松戸市消防局・小金消防署・松戸市立総合医療センター・松戸市子ども家庭相談課・松戸市小金保健福祉センター・松戸市高齢者支援課・小金高齢者いきいき安心センター

わが街の防災 IN 小金

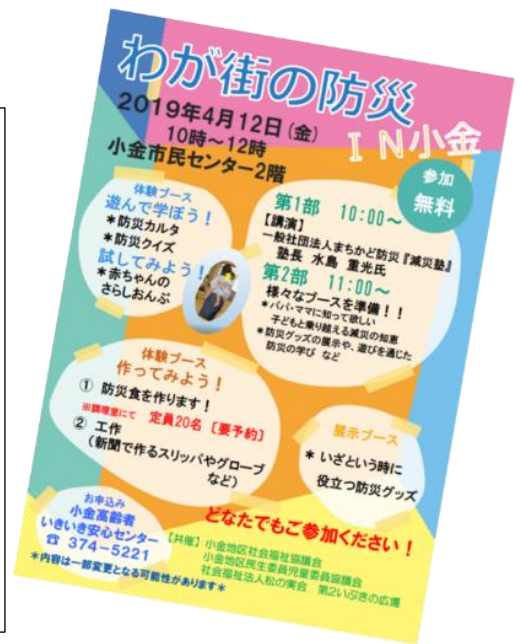
平成31年4月12日(金)、小金市民センターにて防災イベントを開催しました。1部は、一般社団法人まちかど防災『減災塾』塾長水島重光氏の講演、2部は、各ブースで展示(防災グッズ等)や体験(赤ちゃんのさらしおんぶ、工作新聞スリッパ、防災食の調理等)を行いました。

災害が起きたとき、**災害弱者***となる人達があります。個人での備え、助け合いについて学びました。

※【災害弱者】高齢者や乳幼児・病人・けが人・乳幼児を抱えたパパママ・状況情報を理解できない外国人・避難経路に疎い観光客等

〔共催機関〕小金地域包括支援センター・小金地区社会福祉協議会・小金地区民生委員児童委員協議会・第2いぶきの広場

〔協力機関〕おやこ DE 広場北小金・黄色いハンカチ・ほのぼの食堂の会・コープみらい等



講演



体験



展示



★地震災害に備える★

小金消防署より資料提供

東日本大震災

2011年3月11日 14時46分 太平洋宮城県沖で発生

最大震度7 マグニチュード9.0

松戸市においては震度5弱を計測し、住宅の損壊や道路の陥没等の被害が発生したものの、地震に起因する火災の発生は無かった。

関東大震災は昼時に発生したため、調理中の火が火災を発生させ、被害が大きくなった。当時、東京では130か所で火災が起きている。

①

首都直下型地震はいつ起きてもおかしくない。

内閣府の発表では今後30年の間に発生する確率は70%とされています。・・・が

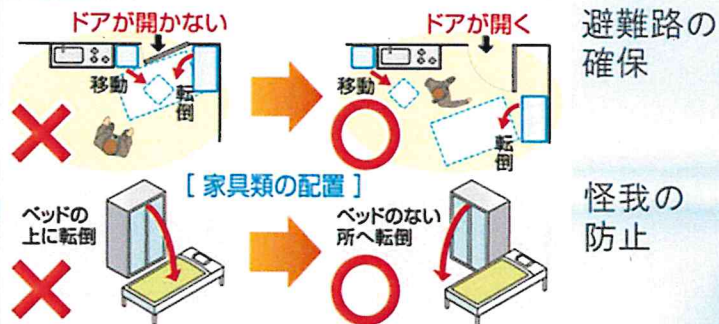
30年後では無く、明日にでも起きる可能性がある。

地震は台風とは違い予測ができず、あらかじめ備えることが重要です。

②

家庭内の安全管理

家具類の配置に気をつけましょう！



阪神淡路大震災では多くの方が家具等の下敷きになりました。

⑤

消火器を用意しましょう！

大規模な地震が発生すると水道管が破断して消火栓が使えなくなり、防火水槽だよりの消火活動となるが、防火水槽の水を使い切ると消火活動が困難になります。このように地震発生時には断水やアスファルトの破壊による通行路の遮断など消火活動への影響が大きいため、初期消火は特に重要です。

■ 消火器の使い方 ■



⑥

非常時の持ち出し品を用意しましょう！

地震が起きてから身の回り品を準備するのは容易ではありません。避難時に両手が使えるようにリュックサックなどに必要なものをまとめて目のつきやすい所に置いておくようにします。

非常持ち出し品の例：

飲料水・食料品(調理を必要としないもの)・貴重品・小銭・下着類・雨具・懐中電灯・筆記用具・テレホンカード・常備薬・処方箋



⑨

日頃から避難場所・避難経路の確認をしましょう！

段から避難場所への避難経路を確認します。道路が狭かったり、がけ崩れが予想されたり、塀が倒れると通行に障害が起こる可能性があるような経路は避けます。

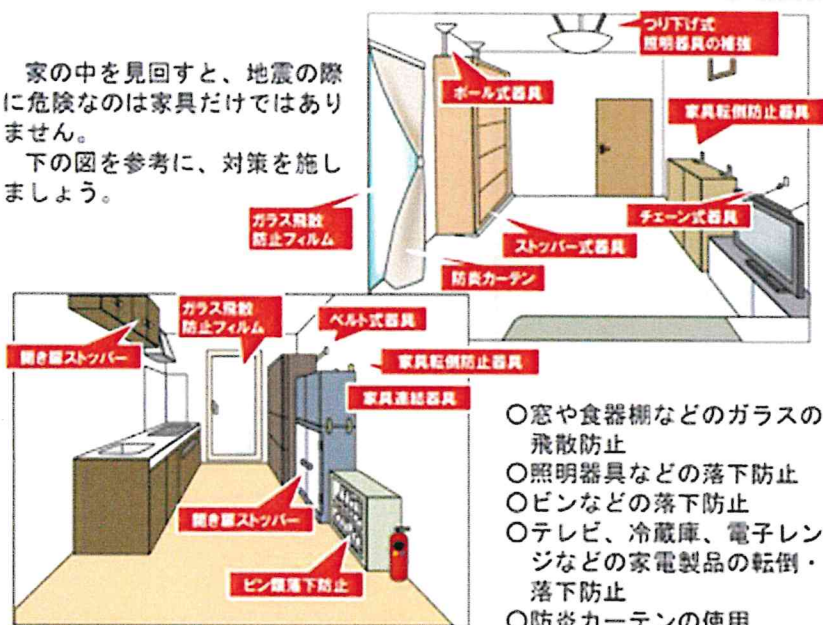
- ・落ちてきそうな物
傾斜のきつい屋根の瓦・切れた電線・ビルの看板
- ・倒れてきそうな物
ブロック塀・自動販売機・古い街路樹
- ・道を塞ぎそうな物
店頭の自立看板・放置自転車

⑩

家具等の転倒を防止しましょう！

転倒防止器具等を使えば安全性が高まります。

家の中を見回すと、地震の際に危険なのは家具だけではありません。下の図を参考に、対策を施しましょう。



- 窓や食器棚などのガラスの飛散防止
- 照明器具などの落下防止
- ビンなどの落下防止
- テレビ、冷蔵庫、電子レンジなどの家電製品の転倒・落下防止
- 防災カーテンの使用



- ・災害弱者が使用する部屋には大型の家具類は配置しない。
- ・自力での家具類の配置換えや固定が困難な場合には近所の方々が協力する。

部屋に閉じ込められたり、物に挟まれては避難できません。

災害弱者の方に対応するポイント

通常の消火器が使用困難な場合は、より手軽なスプレー式の消火器具もあります。



ただし、通常の消火器よりも消火能力は劣ります。

就寝時には是非枕元に用意を！



大規模地震が発生した際は停電の可能性があり暗闇の中では行動ができなくなります。

部屋の中でガラス等が飛散した場合でもスリッパを履くことで怪我をせずに避難できます。

いざ地震が起きたら！

- 1 まず、自分自身の身を守る。
- 2 揺れが収まってから火の始末をする。
- 3 あわてて外に飛び出さない。
- 4 火が出たら初期消火をする。
できない場合は近所に助けを求める。
- 5 ドアや窓を開けて出口を確保する。
- 6 エレベーターは使用しない。
- 7 テレビやラジオで正しい情報を得る。
- 8 避難する場合は徒歩で。

災害弱者の方へ

自力による避難が困難な方は日頃から近所の方とコミュニケーションを図り、必要としている支援を理解してもらい、避難時の協力を得られるようにする。

近所の方、地域の方へ

災害弱者の方には周囲の方々の温かい救いの手が必要です。日頃から積極的に声掛けを行い、いざというときは遠慮なく支援を申し出るように伝えてください。

災害医療体制

(松戸市危機管理課「松戸市災害医療体制について」より)

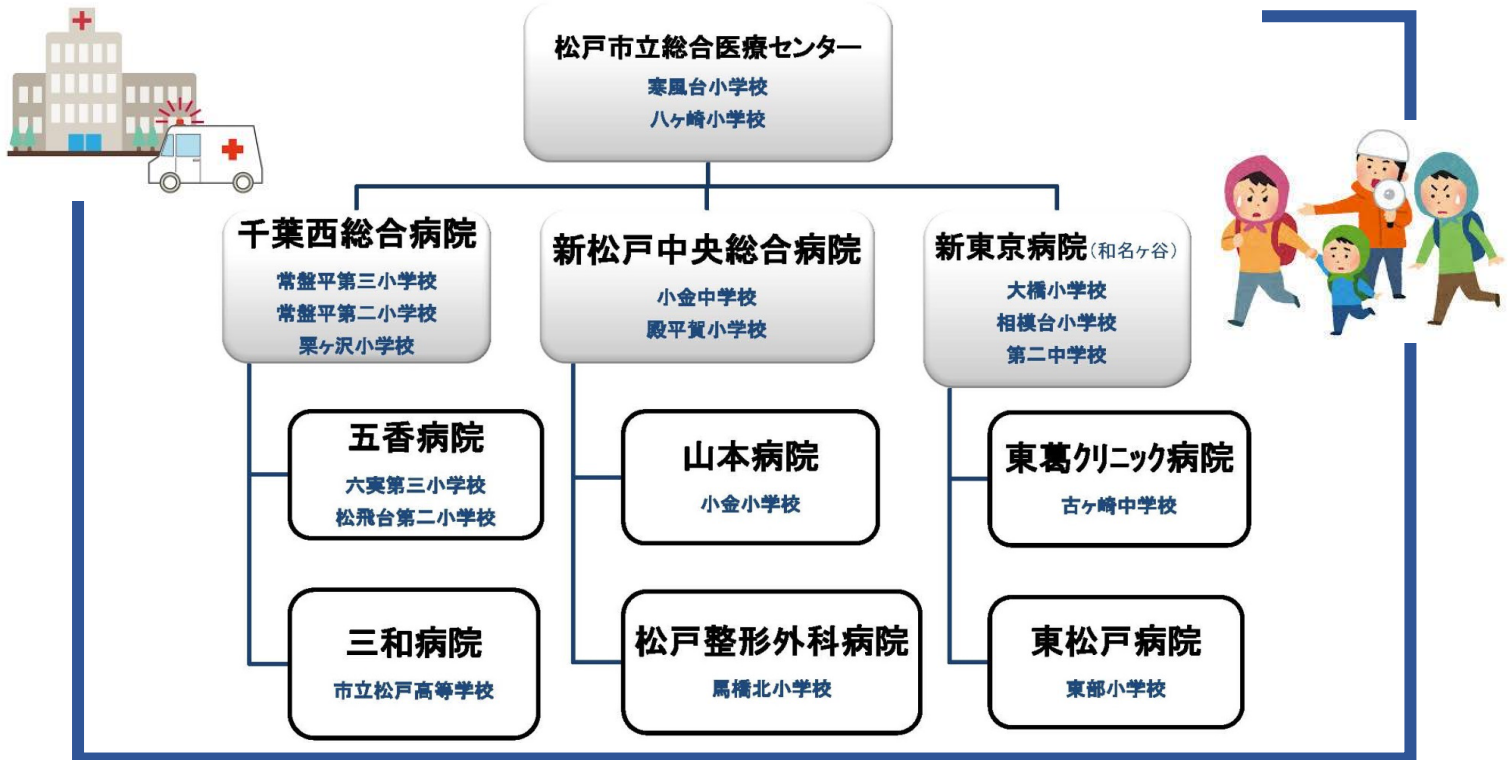
松戸市では、大規模災害発生時において、市内17箇所の学校に設置される学校救護所の他、10箇所の災害拠点病院・災害医療協力病院に病院前救護所を設置して、医療活動を行います。

特に、超急性期(発災72時間後まで)は負傷者の殺到が予想される10箇所の病院前救護所に、予め指定された医師等が参集し、救命活動及びトリアージ(傷病者の選別を行い、治療の優先順位を定めること)を行います。

<救護所の配置について>

下の図は、病院前救護所が設置される病院と、学校救護所が設置される学校を示したものです。各病院は付近の学校救護所と連携して医療活動を行い、処置が困難な患者をより上位の病院に治療を依頼します。

日ごろから近くの救護所を把握し、災害で負傷した場合はそれぞれの救護所で医師による治療を受けるようにしましょう。



パートナー講座（出前）をご利用下さい

講座名 【災害に対する備え】

内容: 災害に対する備えや、心構え、地域での連携

(自主防災組織の結成)の必要性について。

申し込み先: 危機管理課 ☎366-7309

パートナー講座（出前）の内容は
松戸市のホームページでもご覧になれます。

松戸市 パートナー講座 検索



市ホームページ

編集後記

災害が起きたとき、隣近所の顔の見える関係が、助け合いや素早い安否確認につながります。地域活動への参加は、顔の見える関係づくりにつながります。ぜひ、近くのサロン等、自分にあった活動に参加しましょう!!

子どもから高齢者までを対象とした地域活動を紹介する「小金社会資源MAP」(右写真)があります。小金地域包括支援センターの窓口等に設置しておりますので、ご活用下さい。

ご高齢の方で、「何か活動に参加したいけれど、体力にあった活動を紹介して欲しい」等、お気軽にご相談下さい。お電話や来所等での個別相談にも応じます。(☎374-5221)

また、「松戸市地震ハザードマップ」、「松戸市防災マップ」も災害に関する地域情報の確認に、ご活用下さい。松戸市役所や支所、市民センターに設置されています。(HPに掲載あり「やさシティマップ」で検索)

小金高齢者いきいき安心センター センター長 前田貴子

